芸振

大分県芸術文化振興会議会報
県地方史・文化財特集号
No.10 47. 1

発行所・大分市大手町 県教育庁文化室内 県芸術文化振興会議事務局
発行人・米田貞一 編集人・田村卓夫

大分県人と文化財

岩田 正

大分県人と文財という題を与えられて、これは僕にとっては重荷だと思った。というのは、考古学にしても文化史にしても、興味がないことはないが、趣味的なもので、系統立って考えてみたこともないからで、ただ、まんぜんと古い人の心の美しさ、すなおさにひかれる意味において、古美術に興味をもつにすぎないからである。考古学や文化史が、究局の目的として、その時代の社会を解めいすることにあると思うが、それよりも、私はその具体的な姿の美しさに感銘をうければ満足する美術愛好者にすぎないからである。ただ、でき得ればその時代の人の心のよろこびや悲しみを知るためには、どういう時代であったかを知った方が、より深く、その古美術に感激するかという意味で、考古学や文化史、美術史に興味をもっているだけである。

しかし、はたして何が僕は専門なのだろうかと考えてみた。好きなのは芸術に関することが好きであるが、ただ好きというだけ。学校は英文科を出たが、卒業して35年、そのごそれらしき勉強もしていない。ただ、何かの調子で何かに興味をもつと、それに関連のある本を何冊か集めて、考えてゆくうちに、また他のことに興味をもつと、また同じようなことをくりかえしているうちに、歳をとってしまった。ただ考えてみると、学生時代にひまにまかせて真剣に考えたことを、再びいま思い出して、それをもとにして現在自分のまわりのことを考えているようである。

はっきり言えることは芸術と名のつくものがすき、なかでも美術がとくに好き、その意味で古美術が好きだ。古美術といえば文化財ということになる。今まで、古美術のうちで、一番多く接したのは中国の古美術である。今では遠くから見ても、中国の何時代のものであるかということは、大体見当がつくようになった。僕の古美術の鑑賞の仕方は、まづ遠くから時間をかけてながめる。不思議なことに中国で漢の時代のものは漢の時代のセンスがあり、六朝のものは六朝のセンス、唐のものは唐のセンスと言ったように、その時代のものには共通したセンスが感ぜられる。

それから近くによって、細部の吟味をするように習慣づいてしまった。人間でも明治の人、大正の人、昭和の初期の人、戦後の人とその時代の共通したにおいをもっているのと同じだと思う。（芸術はその時代の人間がつくったものであるから）芸術は好きだ。そこには純粋な人間の心がある。

ひょろっと安心院の龍岩寺から年賀状をいただいた。かって二、三回行ったことがあるが、あれから4、5年もたっているのに寺で思い出してくれたことは嬉しかった。そこには藤原期の木造薬師如来座像など三く（軀）ある。15年以上前、東京博物館の仏教美術展に行ったら、数少ない金銅仏のなかに大分市片原八幡宮の銅造仏を発見した。数少ない白鳳期金銅仏が九州の一角にあること、大分県の文化財は、国宝3点、重文24点というように全国でも珍しい白鳳、藤原期の仏教美術の多いところだ。それは大分県人の誇りでもある。

（県芸振会議理事・県立美術博物館期成会理事）

謹賀新年

騰騰踏尽旧年月 愛誦田翁不死吟
栢酒辛盤炉火暖 草堂元旦瑞光深

壬子元旦

大分県竹田市字山川
草刈樵谷
（県美協名誉会員）

文化財の詳しいリストを作る
研究者に助言と相談

田口正治

人類文化の向上発展ということは決して一朝一夕にできるものではない。実に長い間の先人の努力の蓄積である。われわれはその先人の歴史をたずね、さらに新しい文化を開かねばならぬ。そこで先人の遺した文化遺産はわれわれ共通の宝として大切に保存すると共に広く公衆に観覧し研究に供し、将来文化の向上に資しなくてはならない。そこで先ず文化財保存に対し一言したい。

今日最も問題になることは、産業開発と文化遺跡の破壊のことである。今の大型機械で大規模の造成をやれば千年の古墳も万年の景観も一瞬にして見るかげも無くなる。古い土器や瓦の破片など業者の目にはそこらの土塊と何の相違もないのである

次の問題は保存に関することで、文化財を大切なものとして保存するのはよいことであるが、あまりに秘蔵して公衆に開放せず、観覧も研究も許されないこと。これは甚だ困るのである。さりとて今日流行の観光資源として単なる興業的利潤追求の具に宣伝せられることは文化財の冒瀆ともいうべきであろう。そこで文化財保存上、最も考えねばならぬことは文化財その物とその置かれている環境保存のことを忘れてはならない。一般民衆の心の深い信仰の対象たる仏像も鉄筋コンクリートの収蔵庫の中に電燈の光にさらされているのもあじ気ない限りである。

文化財には有形無形といろいろな種類がある。またその所有者にも公共団体や個人の私有がある。しかしいずれも公共価値の高いものであり、公共の宝であって、その保存と観覧は公共性を持つものである。

会員増募と地方

県地方史研究会

に連載した「大分県の歴史と文化」も、要約が単行本として同社から出版されたが、これも洛陽の紙価を高からしめ絶版となって久しい。

毎年五、六月に総会を開いて研究発表や公開講演を行ない、秋には「大分探勝歩こう会」と共催で史跡見学旅行を実施している。昨年は九月に天草・島原・長崎のキリシタン遺跡を訪ね大きな感銘を得た。これらの経験から大分県の文化財の保存や史跡顕彰の後れが如実に痛感された。文化財の調査・保存に対する本会々員の貢献は、決して少なくない。

今後の課題・会員総数二五〇名内外では、各号の雑誌の相当部数が残り、若干の県費補助では経営が苦しい。「県後国村明細帳」は農村の旧家を尋ね廻っの課題である。

第四、これらと並行して基本的な郷土史料の刊行にも特に力を注ぎたい。大友本家の「大友文書」（柳川市立花家蔵）などはまだ公刊されたものがなく、ぜひとも出さねばならないものの一つである。筆者蔵の太閤検地帳七十六冊も、長く公刊が気にかかっている。

しかし本会最大の課題は、何といっても正式な「大分県史」の編さん（纂）であろう。これは本会だけでは余りにも荷が重く、県自体の責任でもある。大多数の県には大規模な県史があるのに、大分県にはまだこれがない。文化行政の立ち後れをボッボッ取り返す時期ではなかろうか。

（県地方史研究会委員長・県文化財専門委員・大分大教授）

杵築史談会

存続活動は子孫への課題

土居寛申

郷土にいて郷土を知らぬということは寂しいことである。ことに私は他郷から流れて来て80数年、見るもの聞くもの総て珍らしく、少年時代から昔物語りに熱中する様になったのは当然というべきであろう。その後郷土史や古跡、文化財等の調査研究が一般に盛んとなり、杵築においても昭和15年1月8日、史談会が発足したが、17年12月わずか2年にして中絶のやむなきに至り、遺憾に思った。30年初秋、多衆の熱望により松平親義子爵や、八坂市長等の参加もあり史談会が復活して、会報「杵築史談」も順調に発行できたが、その後同好者の他界相つぎ、遂に私1人で一切の仕事を処理するという多忙に悩み、かつまた先年杵築市誌の編さん（纂）中、数年間昼夜兼行の監修に疲れ、遂に病床に親しむ身となり、また市の関係吏員も病気で今なお入院中である。「史談会」は今や名のみ残り、このまま進めば埋れている数多き歴史や史跡の探究はわれわれの子孫に残すことになる。

（杵築史談会長）

竹田史談会

市文化財の解説板を掲げる

北村清士

1　竹田市文化財調査委員会に参加。調査委員会は毎年11月下旬に1回行なう。調査委員定員6名で史談会の委員は3名。北村清士、草刈樵谷、伊東金士。

2　竹田市社会課と史談会と共催で毎年12月24日キリシタン洞

以上のことから次のことを提言する。第一に各部門により文化財の詳しい解説、所在地、管理者のリストを作ること。第二に研究者に対し、その目的と問題に応じて助言と相談を惜しまないこと。これはもちろん今さらこと新しく言うまでもないことで、当然やっていることであるが、それがまだ一般に普及されていないのである。（県文化財専門委員・大分大名誉教授）

かえすがえすも残念！ 海外へ流出した柞原神宮の薬師如来像など

岩男　順

かっての豊前・豊後地方は、神仏習合の宇佐八幡信仰と結合した叡山天台宗による仏教が、驚くほど、盛大であったという外、現在その実態を目の当りに見ることはできないが、国東半島を始め、県内の古寺には平安時代中期以降の木造仏像が残っている。

これらの中、大分市大山寺普賢延命菩薩像は、10世紀にさかのぼるかと思われ、奈良様を伝える傑作であり、あるいは県内の木造仏像中最も古く最も優れた作といえるのではなかろうか。

盗難にあい海外に流出した柞原八幡宮薬師如来像は、智吉祥印の薬師像で、国内に現存するものわずかに数体の中の一つであり、柞原八幡と叡山との密接な関係を示す貴重なものであっただけに、かえすがえすも残念なことであった。

日田市岳林寺釈迦三尊像は、康誉・康慈の作と見られるもので、室町初期仏師の系譜を知る上に貴重な存在であり、日出町蓮華院千観音像胎内の、「大仏師法眼覚明うんぬん」の墨書銘

史研究の大衆化

渡辺澄夫

現況・本会は昭和二十九年に、県下各市町村の史談会等を統合する会として発足した。発会後すでに十八年目になり、会員数は県内外を合して約二五〇名に及んでいる。発足以来、毎年四号の機関誌『大分県地方史』を発刊し、今日まで六十二号を出した。そのほか、『豊後国郷帳』上、『豊後国村明細帳』一…五巻を『大分県地方史料双書』として出版し、引きつづき続刊中である。

機関誌の特集号には「大友宗麟特集号」「別府特集号」「日田・津江特集号」「考古学特集号」「民俗学特集号」「キリシタン特集号」「豊後国大野荘特集号」などがあり、いずれも絶版で今も注文が相つぎ再版を要望されている。

本会が企画し会員が分担執筆して毎日新聞社で一冊ずつ探し出した貴重な史料であるにもかかわらず、注文は今のところ出版部数の二割程度である。品切れとなってあわてて探すのが人情であるが、こうした史料が捨てて顧みられぬのは残念である。会員の増募が本会の第一の課題である。

第二には、執筆者の顔ぶれが固定しがちであるのは、マンネリ化の大きな原因である。新人の積極的な投稿が期待される。

第三、右と関連して紙面が専門的でむずかしく親しみにくいという声もある。こうした要望に答えて、論説や史料のほかに、見学旅行記・研究ノート・報告・随想・研究だより・新刊紹介・地方史ニュース・社会科教育などの欄を設け、楽しい読みものにしたい。地方史研究の大衆化が今後

窟礼拝堂において史実の講話および追悼式を行なう。市長、来賓、史談会員等百名余の参加。

3　竹田市文化財の解説板を掲げる（場所を掲示）。錢座跡、御客屋、角田九華碑、唐橋世済の碑、唐橋世済の墓地、木下の石仏、不動院の石仏、洞窟礼拝堂の解説、広瀬中佐の旧宅広瀬中佐墓地、八幡山の石仏、円通閣、愛染堂、洗竹窓、唐橋世済碑、碧雲寺の史跡および中川氏墓地、滝廉太郎の旧宅

4　竹田市に史談会より出版物を贈呈。

①　キリシタン洞窟礼拝堂の解説

②　竹田市文化財資料第1巻、第2巻

③　竹田市の碑、銘第8巻

（県芸振会議理事・竹田史談会長）

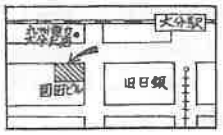
大分市に画廊誕生

日本画
洋画
色紙
額類

あなたのお部屋のムードつくりに、また新築のお祝いなどに……ぜひ一度おこしください

美之国屋画廊

大分市府内町一丁目二十二番二
（九電正面一階）電話六四〇六
営業時間　午前九時～午後八時
⑥店頭駐車可



は、鎌倉末期から室町初期にかけての仏師の新たな発見でありこれらの仏像が、ここ、三・四年の間に発見されたものであるだけに今後の調査によって、なお、新たな発見があることを期するものである。しかも、それらの保管・修理・研究等、緊急になさねばならぬ多くの問題が山積されており、そのための財政的な処理と、所在地区住民の文化財保護への協力が、今最も望まれることとなっている。

（県文化財専門委員、大分大教授）

何とかならなかったのか 貴重な「分立国家」の遺跡

賀川光夫

貝塚、古墳、都城跡、城跡その他わが国にとって歴史上、学術上価値の高いものを史蹟という……文化財保護法の一文の要旨は以上のごとくであるが、これを大分県にあてると、貝塚だけでも20か所余り。未確認のものを含むと数倍に及ぶであろう。これらのうち、集落に付属して文字通り古代集落の構造を形成するような重要な遺跡が、宇佐市周辺に2か所存していた。一つは環溝集落の典型で、弥生式時代の単位集団を形成していた上田原遺跡であった。溝をめぐらした50メートル平方の場所に10個ほどの竪穴があって、それぞれ貝塚をともなう。これを5つ合わせて集落の結合体をなす。この一群の集落は駅館川をはさんで台ノ原遺跡群と地縁的に結合される。弥生式時代の「原生国家」はかくして形成された。この貴重な「分立国家」を意味する遺跡は、工場と学校の建設で破壊されてしまった。何とか保存できぬものであったろうか。

（県文化財専門委員・別府大教授）

挙国一致の人間性回復 子孫に対する義務

様式の変化によって、その伝承に大きな影響があらわれてきているといえる。本来の姿の変化を余儀なくされている各地の芸能、あるいは機械導入を強いられている工芸技術など大勢は時代の波にさからえない時点においつめられているといえる

これに対処して、公開費補助、後継者育成費補助、記録作成等の措置を講じているが、満足できるまでには至っていない。

庶民の文化財というべき民俗資料についても、芸能や工芸技術と同様時代の流れにさからい得ず民俗資料の散失、風俗慣習を伝える話者の激減など早急な保存措置が要求されている。

人類が文化財生活をする上に必要な文化財である記念物の保護と文化財保護は関係行政機関と一部の人々によってのみでできるものでなく、国民全部が保護の手をさしのべなければ不可能である。

文化財には、十分な予算措置をすれば保護できるものと、そうでないものとがあるのでこの点からも文化財保護思想の徹底が痛感されるのである。

この具体的措置として巡回文化財教室の開催、文化財保護重点地区の指定、文化財愛護関係団体、少年団の育成、宇佐風土記の丘建設等をあげ取りくんでいるが、文化財の破壊や盗難事件は跡をたたず、今後の文化財保護思想の普及啓蒙の度合いのいかんが、子孫に対しての義務を果せるかどうかにかかっている。（県教育庁文化室文化財係長）

佐伯史談会

現地研修 「探訪の会」を重ねる

高木嘉吉

佐伯史談会は昭和39年に佐伯市南郡の郷土史研究に興味と趣味を持つ同好の士が集って結成した。じ（滴）来8年、会員は相睦みながら融和協力して会の運営を進めている。佐伯の生んだ郷土史家、佐藤鶴谷、柴田南華、増村隆也氏等の研究は私たちのよい指針となった。

会の運営方針として現地での研修を最も重視し、何十回かの探訪の会を持った。その足跡は前記の先輩諸氏よりも広範精細にわたっているとひそかに自負している。その結果今まで見落されていたものを発見し、またあいまいであったことを正確に位置づけたことも少くない。

現在会は顧問5、普通会員175、賛助会員126を包合する大きな組織に生長しているが、活動の中心は普通会員で、その問題ならあの会員が知っていると、或る部門で造詣の深い会員が育っていることは頼もしいことである。

会の活動に伴って文化財の保護や自然の愛護に会員の関心が高まってくる。私たちは毎月発刊している機関誌「佐伯史談」に折々、この問題をとりあげて、当事者の関心を促すと共に世論の換起をはかっている。市が重い腰をあげた文化財調査委員会には、会員3名が参加して推進役を果しているし、最近発足した佐伯市史の編さん（纂）も会員の協力によって進められている。

（佐伯史談会長）

文化財保護に関する管理職の再教育を

入　江　英　親

石造建造物の保護、それは「破壊と消失から護る」ことであろう。土木工事や樹木伐採の際の破壊、はなはだしきは信仰上から破壊した実例もある。石垣築造の石材や燈籠などへの転用宝物埋蔵を期待する欲望的発掘のための除去、牛馬による被害樹根の成長による倒壊、潮風や地獄の湯煙による風化など破壊破損の理由はさまざまである。消失については、売却と盗難の場合とが考えられる。いずれにしても、防げば防げることばかりである。

文化財保護のためには、まず全市町村民の文化財に対する理解と愛護の必要を提言する。そのためにも文化財の指定、愛護の作文募集、巡回講座の開催など、県文化室の一連の計画は好ましい。しかし私は、文化財関係の通達でも、学校全職員に徹底するようにしてほしい。国東塔に関する照会に2基のみというでたらめの回答をよこす市町村をなくすためにも、管理職の再教育もまた必要なことと提言したい。

（県文化財専門委員・県文化財管理指導員）

加速度的に姿を消している「大分の古民家」

村　松　幸　彦

金沢や京都、倉敷や萩の町には、歴史を刻みこんだ建物が、

文化財保護体制

——橋　本　操　六——

文化財とは、有形、無形文化財をはじめ、民俗資料、史跡名勝天念記念物、埋蔵文化財と文化遺産と人間が文化的生活を営む上に必要な自然環境までを含めたもので、多岐にわたる保護が要求される性質をもっている。

一、文化財保護の現況

有形文化財は、そのほとんどが年代を経たものであるため、修理や保存施設を必要とするもののみである。そのため毎年防災施設工事、修理工事、保存施設の建設をてがけているが、県指定、市町村指定、未指定文化財については、そのほとんどが今後の課題として残されている。

芸能や工芸技術のような無形文化財は、人口の都市集中化、生産埋蔵文化財の保護は、一行政機関で保護できるものではなく、国民が一致してこれにあたらなければならない性質をもっている。

大気汚染、水質汚濁農薬、開発は自然のバランスを極度に破壊し人間すらその危険にさらされているのである年ごとに少なくなるホタル、トンボ。あるいは奇形魚、赤い前をむき出した山や丘をみても、各関係機関の調整と挙国一致の保護体制の確立が要求される

二、文化財保護の課題

文化財の保護は、それを受けついだ人々の義務であると同時に、人間性回復のためにも保護しなければならない重要な文化遺産であることはいうまでもないところである。

大分県は下の下

県立美術博物館建設総工費がなぜ4億に？

1月7日から14日まで北九州市立八幡美術館で「7人の会展」が開かれた。このメンバーはいずれも大分県の若手中堅画家たちで昨年の朝日西部美術展で最高賞をとった井上佐之助（中津市）をはじめ、大分、別府に在住する者の意欲的な絵画展の進出。

この「7人の会」も過去3回大分市で毎年開いてきたが、北九州市で開催の理由は「会場難と会場費」にある。1月12日の朝日新聞に『大分県には本格的なグループ展をやる美術館は一館もない。しかたなくデパートや大分市の文化会館を利用してきたが、使用料は1日1万円～2万円とべらぼうに高い。その点、八幡美術館は比較にならぬほど立派な施設なのに使用料は1階だけだと1日千円……と「7人の会」はいう。九州は美術館など美術発表施設については後進地といわれている。北九州市も〝文化不毛の地〟といわれ、八幡のほか新しい市立美術館を計画している。』↘だが下には下があるというわけか。』と書かれ、大分県が文化の面で下の下であることが指摘された。

木下知事の時代「県立美術博物館の建設は九州で最後になっても、いいものをつくるから、しばらく待ってくれ」といわれてきた。昨年末の新聞発表によって建設用地の決定と同時に県の構想の一部が公表された。それによると敷地面積も、総工費も極端に縮少されている。10億といわれていた県立美術博物館がなぜ4億数千万という半分以下になったのか？昨年完工した宮崎県の約7億よりもはるかに下廻る小さなものになるのではないか？。

大分県が産業と文化併進の政治をするならばバランスのとれた文化政策を県立美術博物館建設にまず示してほしいものだ。

（S）

日常生活の中に影をおとして、味わいのある街並みをつくっている。そこには先人からうけついだ生活と文化を守り育てていこうとする努力が感じられる。

ひるがえって私たちのふるさとは、都市化過疎化の名のもとに歴史と文化を語る木造建造物が、その古さのゆえにはかなく消えさってゆくのを見過してはいないだろうか。特に古民家にいたって加速度的に姿を消している。

私たちにふるさとを感じさせる街とは、その地域の歴史と自然を豊かに表現している街ではないだろうか。心ある街では、環境保存条例や、伝統美観条例をつくって、意識的、計画的に個性のある街つくりをすすめている。

私たちは今こそ、人間味豊かな街をつくるために、木造建造物の保存を含めて、その環境の保存と形成に積極的行動をとる時期がきているものと思われる。

（県文化財専門委員・県建築審査会委員）

同じ緑であっても……

荒　金　正　憲

ある観光会社の人が、奥別府のススキ草原や谷間にようやくまとまりかかった広葉樹の林をみて、「奥別府の自然は荒れ放題だ」といったと聞く。自然を造園ぐらいに考えている。人の手の限りをつくして抑制し、ためて、意のままにしないと気にいらないらしい。

せっかくの鳥獣保護区があっても、雑木林がつぎつぎと切られていく。切っても植えるからよいではないか。というスギやヒノキの林では、鳥の住めない保護区になってしまう。

生活の基盤となる「緑」の確保はいうまでもないことだが、シバう(生)であっても、スギ林であっても、同じ緑であるではないかという感覚は、自然を商品とみたり、材木とみることか

無秩序な環境破

大分自然を守る会

省の手でまさにこわされようとしている。百三五億円の巨費を投じて農地の基盤整備とやらを始めるらしい。われわれの会はさっそくこれにストップをかけることにしているが、もしそうなれば農民の利益とまっこうから対立することになる。これが住民運動の泣き所の一つである。そこでわれわれは、考古学、農学、土木工学など多方面の学者を動員して調査を行ない、文化財の保護と農民の利益との調和点を見出すために準備を進めている。

奥別府の猪の瀬戸は尾瀬にも劣らぬ文化財である。この貴重な湿原植物地帯に一業者がゴルフ場を造るという動きを察知したので、直ちに会の名で環境庁に中止命令を要請した。他の諸団体の力も加わって幸いに成功した。ここが国立公園でありしかも特別地域になっていることも救いであった。

である。原生林を犠牲にしてまで経済性を求めるのか。また、このようなスカイラインがはたして過疎の歯止めになるものかどうか。古来保たれてきた治水体系に重大な影響を及ぼすことはないか。本会はこれらの疑問を学問的に解明することによって、この計画の修正または中止を要請する方針である。

そのほかにも多くの問題をかかえているので、親しく実情を視察し、善処していただくことを大石長官にお願いしている。

われわれはもろもろの開発を否定するものではない。ただ、利潤追求一辺倒のがむしゃらな開発に対して忠告しているのである。無秩序な環境破壊を阻止する権利、つまり住民に与えられた環境権を行使しているだけのことである。

（大分自然を守る会長・九州自然を守る会協議会長）

波紋

風が吹いても

中谷健太郎

犬がこ（仔）を噛んだ。2週間ほどよそに預けてあったこ（仔）を噛んだのである。『やっぱり馬鹿犬だわ』と女房が断定した。

イトヨという魚の雄は繁殖期になると腹が赤くなる。それをめがけて他の雄が猛烈な攻撃をかけるという。ところがその時期に木片の腹を赤く塗ってぶら下げても、イトヨの雄はやはり攻撃をかけてくるという。

どうも動物はいろんな情報の中から自分に必要なものだけを選んで反応しているようだ。

やっかいなものは切捨ててしまっているふしがある。例えば犬の場合、よそにやられていたこ（仔）を記憶しておいて、ある時間経過の後にそれを復活させるというようなことを切捨てている。そのおかげで朝晩一緒にいる〝現家族〟のつながりを真一文字に維持してゆけるという訳だ。イトヨ魚の場合だってそうである。

雄は恋がたきの赤い腹だけをみているのであって、そのボディは木片であろうが、精巧なプラモデルであろうが、そんな情報は完全に無視してしまっている。実にいい傾向だ。

この頃は疲れる。いろんなことが気になるのである。環境が壊れてゆくこと。教育が気狂いじみた方向に流れてゆくこと。生産を基盤とした思潮がますます烈しくなってゆくことなどなど……。そしてそのどれひとつをとりあげてみても、〝真剣にとり組めば問題は解決する〟という見通しはつかないのであるどうも情報の切捨てがうまくいっていないらしい。

動物に劣ることおびただしい。必要なもの以外には目もくれずイトヨ魚のように突進したいものである。そして不要なもの

ら生まれてくる。

生産者である緑の植物が、消費者である動物、そして還元者の菌類とバランスを保って、ともども生命のともしび(灯)を未来へ受けついでいく雑木林が大切なのである。

（県文化財専門委員・日本生態学会九州地区委員）

消息

- **松下竜一氏**（中津市船場町）「あかつきの子ら」（280枚）を脱稿。ろう児施設〝あけぼの学園〟を舞台にした小説。近々出版の運び。またこの小説は造形劇場の野呂氏が劇化を予定している。
- **47年春季県美展**--5月16日(火)～21日(日)トキハ文化ホールで開催。部門は日本画、洋画、彫刻、工芸。
- **韓国の美術と歴史を探る旅**。県美協大分支部では会員相互の親睦と研さんをはかるため、海外旅行を計画。期日は8月または7月の5日間。経費・6万9千円。内容・史跡、寺院、博物館、風光地、観光地、主要都市、民族舞踊、ショー等と写生。詳細は県美協大分支部事務局佐藤至良方へ。
- **県立美術博物館設立委員会発足へ**・大分大旧経済学部跡地の県払い下げが決まったことにより、県教委では県立美術博物館建設のため、近く内部的な設立委員会（仮称）を発足させる。設計内容など同館建設の諸問題を審議する目的で学識経験者、行政側代表、関係諸団体などで組織される。
- **トキハデパート催し案内**

2月1日～6日・県立芸術短大制作展
同月15日～20日・県高文連美術展・県産業工芸展
同月29日～3月5日・山下清展、入場料 150円
3月8日～12日・県小中学生書初展・大分大学美術科卒業制作展
同月14日～19日・ユネスコ巡回世界名画展
同月21日～26日・勤労者創作美術展

壊を阻止する

松田正義

寸暇を得て久留米南郊の石人山、岩戸山、乗馬などの古墳群を一巡した。がんじょうな鉄の格子戸にバカでっかい錠前がかけてあるペンキ塗りの立て札を判読すると、この古墳を見たい者は地教委に出願して手続きをとれとある。また、石人古墳のすぐ近くには、鉄条網で二重に守られた半壊のいたいたしい古墳がある。通行人に聞いてみると、宅地造成工事で前方部分を削り取られたものだという。

ここにわたしは、文化財保護問題に関するいくつかの断面を見た。一つには、業者をも含めて市民の認識の低さであり、もう一つは市民を寄せつけない形でしか守られていないという、保護方法のつたなさがある。

文化財を破壊するのは、ひとり業者だけではない。宮崎県西部原古墳群の一帯は、農林問題はしかし、これで片づいたわけではない。私有地に制限を加えるには、おのずから限界がある。ゴルフ場以外の計画を業者から次々に出された場合に国や県がそのすべてを拒否できるかどうか。そこで本会は、その土地を国や県が買い上げる以外に抜本策はないと判断して、目下買収申請の準備を進めている。

九月初旬に阿蘇国立公園、祖母傾国定公園を含む九州山脈の屋根伝いに、全長四六五kmの大型林道の建設計画が林野庁で進められているらしいことを耳にして驚いた。九州に残されたただ一つの原生林が、このスカイラインであたら台なしになること必定である。

林野庁では、山林の経済性を高め、過疎に歯止めをかけ、治水に貢献するためだという。かけがえのない文化財には〝馬鹿な犬〟のように厳しい一嚙を加えるべきだ。

そんなことを考えながら新しい年を迎えてしまった。

『不動のものだけが美しい』といった小林秀雄のことばが思い出される。私にとってかけがえのない一物とは何か？それを考えてみたい。そんな心の土じょうなしに文化財を考えることは無益なことである。

（明日の由布院を考える会委員）

「芸振」第1号から第11号までをそろえよう

『芸振』は昭和45年8月に第1号を発刊して以来、美術、音楽、文芸、演劇、など各部門を特集して2年間隔月発行してきました。大分県芸術文化の現況と課題を知るために、ぜひ№1～№11までをそろえて、参考資料にしてほしいと思います。1部40円、県芸振会議事務局（県教育庁文化室文化係）に申込んでください。

漢方薬 相談薬局

大分市中央町2－3－7
（若草公園前）

株式会社 ブンゴヤ薬局

② 2985

大分県芸術文化振興会議　参加団体・個人追加一覧

（46年６月以降の参加37団体と個人35人）

	団体名	代表者名	事務局長名	事務局所在地	電話
文芸	赤トンボ句会	南　正人	同左	宇佐市大字	
	臼杵鷹俳句会	金田眸花	野村英男	臼杵市中央	
	大分番傘川柳連合会	内藤凡柳	成貞可染	別府市光町1	
	大分わかくさ句会	平田寒月	工藤芳久	大分市中津	
	歌帖社	下郡峯生		大分市城崎	
	玖珠俳句会	佐藤峻峰	秋山まり	玖珠郡玖珠	
	くさの会	山田こころ	藤原嘉久	大分市大道	
	佐伯合同短歌会	長門はる子		佐伯市大手	
	短歌げっしゅう社	村上富六	安部孝義	豊後高田市玉	
	歩道短歌会大分支部	上田耕司		大分市千代	
	八雲短歌会	田吹繁子		別府市西野	
美術	宇佐美術協会	岡部忠之	後藤賢一	宇佐市上田	
	玖珠南珠会	高田隆次	大石進一	玖珠郡玖珠町	
	すずらん会	峯　茂木		臼杵市上塩田	
	飛火会	上田忠夫	右田則人	宇佐市上田	
書道	雲龍文化書芸院	山峯幾太郎	同左	別府市田の湯	
	西国東郡豊後高田市書道協会	安東光雄	安部孝義	豊後高田市玉	
音楽	大分音楽研究会	小長久子		大分市中春日	
	大分県吹奏楽連盟	和田政見	糸長信義	別府市浜脇	
	県民オペラ	小長久子		大分市中春日	
	フクダシンフォニックマンドリンオーケストラ	福田五彦	河原隆男	大分市金池町	
	創明音楽九州支部	田中絹代		大分市中央町	
	現代箏曲研究会	菊池幸園	園田福子	大分市府内町	
	万謡会	池田萬龍		大分市都町1	
詩吟	臼杵詩道会	佐伯二郎	首藤安博	臼杵市本町4	
舞踊	若柳妃秀会	尾造洋子	同左	宇佐市東大堀	
演劇	大分こども劇場	二宮啓介	岩井恵子	大分市大手町	
地方史	豊後高田市郷土研究会	日浦保徳	安部孝義	豊後高田市	
地域文化団体	緒方町芸能文化連盟	三代　博		大野郡緒方町	
	国東文化協会	岐部与平	山崎準一郎	東国東郡国東	
	佐賀関町文化協会	古田鉄男		北海部郡佐賀	
	玖珠町芸術文化会議			玖珠郡玖珠町	
	挾間町文化協会	丹生拓木	平野清彦	大分郡挾間町	
	日出町文化協会	垣迫　伝	佐藤　暁	速見郡日出町	
その他	宇佐市盆栽会	渡辺鉄夫	山台福枝	宇佐市四日市	
	臼杵市読書会	吉田　公	高橋国成	臼杵市浜西3	
	時枝謡曲練習会	小宇佐ヨシ子	同左	宇佐市大字下	
個人	足立省一、東豊玉代、安東不二郎、糸井英雄、上田駒男、江藤嘉基、大崎聡明、尾造洋子、利田正男、笠村裕子、辛島匡士、菊池幸園、吉良正利、小林咸一、首藤春草、菅久、進来哲、園田仁、友永素男、仲町謙吉、鳴海淳郎、長門はる子、挾間正年、平田暘邨、姫野征子、平野昭彦、堀宗閑、南正人、宮崎豊、花柳三鶴千代、藤間茂登女、森ともえ、山口九碩 山口修一、山村唯男				

（※くわしくは、本年３月発刊予定の「大分県文化年鑑」の中に名簿として集録します。）

編集後記

「芸振」の編集をはじめて２回目の正月を迎えた。
この号は茶道界を含めた「県地方史・文化財」特集であったが、茶道界の原稿がこないので、今回はカットすることにした。
この号から「波紋」とは別に匿名欄「素描」を設けることにした。次号は「県地域文化団体」の特集を計画している。
本年度の最後であり２年間にわたる編集計画最後の発行になる。執筆者のご協力を切にお願いします。